

Y G 性格検査とは

Y G 性格検査とは、その名の通り人の性格を検査する性格検査です

(1) 120問の質問を使つての検査

質問項目は心理学者の学究成果から設定されたものです。

性格に関する質問、例えば、「人の世話が好きである」というような問いです。

この質問に対して、自分の行動やクセなど性格を振り返って、回答欄に、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の答えから選択して、回答欄にあらかじめ印刷された○印、△印をなぞって印を入れます。

検査用紙には回答欄と共に採点欄も付いており、検査が終了すれば、その場で採点が可能です。採点は回答した○印や△印を集計することで、12の性格因子が数値化され、その数値を検査用紙にあるプロフィール表に移すと、検査を受けた人の性格をグラフを通して観察できます。また、Y G 性格検査ではプロフィール表（グラフ）に現れる形を5つの型（グループ）に分類しており、型判定をすることで、検査を受けた人の性格特徴をつかむことができます。

(2) Y G 性格検査のプロフィール図（グラフ）から何がわかる？

型	グラフの形状	タイプ	特徴	情緒	向性
A	中央寄り	平均型	中庸	平均	平均
B	右寄りになる	独善的	積極的	不安定	外向
C	左寄りになる	平穩型	温順寡黙	安定	内向
D	左上からの右下がり	管理型	積極的	安定	外向
E	左下からの右上がり	異色型	寡黙	不安定	内向

どのタイプが望ましいか？人事担当の方はD型の人を選定されますが、社員すべてが積極的で管理者向きであれば良いとも言えません。

ソフトウェア開発や技術開発の研究者はE型が向いているかも知れません。生産現場での熟練工の方はC型の方が安定してして、黙々と仕事をしてくれる傾向があります。独立して専門技術に生きたい、または事業欲のある人はB型の方が向いています。経理事務ほか管理事務に適応する人はA型の人です。しかし、人によって細かい分析も必要で断定はできません。

Y G 性格検査のプロフィール表から人物像が浮かび上がってくるように、分析に習熟することも大切です。

これらの見方は「[Y G テスト入門](#)」の本に詳しく説明されています。検査用紙と同時に注文ができます。

(3) 「質問紙法」を採用しているのはなぜか

検査者が質問を読み上げることによって、強制的に被験者（回答者）に回答する方法です。

この方法は、自分で質問を読んで記入するという方法より、格段に被験者の性格を正確に引き出せると言われています。

したがって、精度の高い回答を得たいならば、このY G性格検査の強制的に質問を読み上げることが理解し、一定の間隔（6-7秒）、被験者に余計な考えをする余裕のない間隔で、順次読み上げて行き、回答してもらうことです。

性格検査は、この検査方法を確立された辻岡美延先生（関西大学名誉教授）の著作によれば、再認識され、本邦における質問紙法形式の性格検査の中で最も優れたテストとして、教育・臨床・産業の諸分野において広く用いられるようになった。」と書かれています。

（新性格検査法—Y G性格検査・応用・研究手引き—
辻岡美延著 日本心理テスト研究所株式会社 2000年刊）

Y G性格検査（Y Gテスト）で何がわかる？

Y G性格検査の検査結果として、性格傾向をつかむことができる「型判定結果」と、性格特性を詳細に表す「プロフィール表」が得られます。

性格傾向（型判定）

Y G性格検査が分類した5系統・全15型（5系統×3類）のいずれに該当するかを判定することで、被検査者の性格傾向を掴めます。型は検査用紙の「プロフィール判定基準」で判定ができます。

系統・型	情緒安定性	性向	特徴・傾向
A型（典型・準型・混合型）	平均	平均	特に目立った特徴のない平均タイプ。性格はバランスがとれている。
B型（典型・準型・混合型）	不安定	外向	積極的で活発。不都合が生じると情緒と社会適応性が表面化。力を発揮しようとする。
C型（典型・準型・混合型）	安定	内向	順応性・正確性・客観性があり、堅実なタイプ。行動は控えめで受動的。
D型（典型・準型・混合型）	安定	外向	行動的でリーダーシップがある。特に営業職・管理職に適応する。
E型（典型・準型・混合型）	不安定	内向	不都合が生じると殻に閉じこもる傾向がある。芸術や技術的な異才を発揮する機会が多い。

（参照）各型の特徴についての詳細は「Y Gテスト入門」（7-4.プロフィールの見方）を参照ください。

※型判定結果は傾向であり。上記に示す特徴の程度には個人差があります。個人の特徴を掴むときはプロフィール表を観察してください。

性格の全体像と詳細（プロフィール表）

プロフィール表は12尺度（因子）の結果をグラフ状に展開したものです。プロフィール表

を観察することで、因子の強弱の程度を個別に、また、性格特性の全体像や相関関係にある因子を複合的に見ることができ、性格特性を視覚的に捉えることができます。プロフィール表を観察することで被検査者のありのままの姿が見えてきます。

(※プロフィール表を読み取る経験や慣れがあるほど、プロフィール表から多くの情報を得ることができます。初めての方にはY Gテストの書籍を参考にされることをおすすめします。)

【12 因子の強弱の程度】

プロフィール表から各因子の強弱の程度がわかります。因子の状態が強い場合と弱い場合では異なる特徴を意味します。ある因子の状態が強い場合（または弱い場合）でも、相関関係にある因子がその因子より強かったり弱かったりすることで性格特性が異なります。

抑鬱性	気分変化	劣等感	神経質
主観性・客観性	協調性	攻撃性	活動性
のんきさ	思考性（外向・内向）	支配性	社会性（外向・内向）

(参照) 因子の個別解説は「Y Gテスト入門」(7-2. 12 尺度の性格特徴)を参照ください。

【4つの特性の傾向がわかる】

因子を複合的に見ること、「情緒安定性」「人間関係性」「行動特性」「知的活動性」の4つの特性について、被検査者の特徴がわかります。

情緒安定性	長所	明るい、楽天的、冷静、情緒的、自信がある、気配り、落ち着き
	短所	暗い、鬱病的、感情的、冷徹、自信がない、心配性、イライラする
人間関係性	長所	友好的、寛容、開放的、社交的、明朗、リーダーシップ、従順
	短所	警戒心、不信感、非社交的、自己顕示欲、追従的、妥協的
行動特性	長所	積極的、活発、俊敏、温厚、従順、熟慮的、果断的
	短所	受動的、依存的、人に任せられない、衝動的、順応的
知的活動性	長所	客観的、現実的、信念、熟慮的、果断的
	短所	主観的、自己中心、空想的、浅薄、衝動的、順応的

(参考文献) 「Y Gテスト入門」(1-4. Y Gテストで何が測定できるか)

【思考と行動】

思考と行動の特性状態をみることで、計画性や行動パターンがわかります。

熟慮型	熟慮的で深い考えをもって計画性のある行動をとる
-----	-------------------------

衝動型	考えが浅く計画なしに思いつきの行動をとる
果敢型	普段の考えは見え、思い切った決断と行動をとる
順応型	自分では決断せず周囲の計画や流れに合わせて行動をとる

(参照) 行動タイプの判定は「YGテスト入門」(7-3. 4つの性格特性「知的活動性」の表解説)を参照ください。